

登録No.
登録名
催吐性リスク
適応疾患
投与スケジュール

S-122
Phesgo/Tri-DOC療法
軽度
乳癌

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	フェスゴ	初回 IN/body 2回目以降 MA/body		d1	S.C	初回8min以上 2回目以5min以上	初回は30分間経過観察 忍容性良好なら2回目以降15分経過観察 大腿部のみに投与。前回の部位から少なくとも2.5cm離れた場所に投与
Rp.2	デキサメタゾン 生食	6.6mg/body 50mL/body		d1	d.i.v.	30 min	
Rp.3	ドセタキセル 生食	75mg/m ² 250mL/body		d1	d.i.v.	60min	粘調度高いため、輸液総量の1.5倍量を Drip-eyeに設定
Rp.4	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	全開	

1クルルの期間
標準クルル数
最大クルル数
休業期間の規定
投与間隔短縮の規定
その他
(副作用・PS規定等)

3週間
術前・術後補助療法 DOC：4クルル、フェスゴ：18クルル、進行再発：PDまで

注意： Phesgoが前回の投与日から6週間以上空いた時は、改めて初回投与量で投与。
DOCは6Cycleまで投与。以後状況を見て中止可。

DOCドーズダウン規定： FNまたは1週間を超えて持続する好中球数500/mm³未満の発現により投与延期した場合。
Plt:10万未満、高度または次第に増悪する皮膚反応の発現。75mg/m²→55mg/m²

中止基準： 好中球<1500/mm³、Plt<10万/mm³
LVEF≥50%でベースラインからのLVEF低下>20%→投与継続（3週間以内にLVEF再評価）
LVE<50%でベースラインからのLVEF低下<10%→投与継続（3週間以内にLVEF再評価）
LVE<50%でベースラインからのLVEF低下≥10%→投与延期（3週間以内にLVEF再評価）
→再評価後LVE<50%でベースラインからのLVEF低下≥10%→中止

副作用： infusion reaction、発疹、注射部位反応、心不全、
骨髄抑制、FN、悪心、口内炎、味覚異常、下痢、脱毛、浮腫、HFS、末梢神経障害、倦怠感、間質性肺炎